「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

「多賀城スコーレ」（宮城県多賀城市）

取組の概要や経緯

震災をきっかけとして、不登校や不登校傾向の子どもが増加傾向にあり、その背景には家庭環境など様々な要因が複雑に絡みあっており、学習意欲の低下につながっている。そのため、子供の学習意欲を向上させる取り組みを、地域・家庭・学校で連携する仕組みが必要である。

内容

地域の地区公民館において、小中学校の自主学習の取り組みを支援する事業「多賀城スコーレ」を行った。夏季休業に３日間、冬季休業に２日間の計５日間開催し、東北学院大学の大学生ボランティアに子どもたちの学習の支援や見守り、時には話し相手として子供たちを支援してもらい、最寄りの地区公民館において実施した。

サマースコーレは、小中学生延べ５７名、学生ボランティア１２名、ウィンタースコーレでは小中学生延べ５２名、学生ボランティア１６名が参加し、このスコーレを通じて学習意欲が向上した児童生徒が多かった。

ポイント

①地域の公民館で実施　②大学生ボランティアの協力　③子どもたちの自主学習への意欲を支援する取り組み

成果

・スコーレに参加した小中学生にとったアンケートでは、サマースコーレでは、集中して勉強に取り組むことができた児童生徒の割合は100%であり、サマースコーレを通じて自分から勉強しようという気持ちになっていた。また、分からなかったところを解決できたの割合は、小中学生合わせて89.4%であり、ボランティア学生に進んで質問できる環境にあったことが要因であると考えられる。

・ウィンタースコーレも、ほぼ上記と同様の傾向がみられたほか、「多賀城スコーレに参加して感じたことや次回に向けての希望などがあったら書いてください」とい自由記述式のアンケートには、「学生の方々が思っていたより丁寧に教えてくれて驚いたと同時に嬉しかったです。学生の方々のおかげで宿題のわかんないところが分かって良かったです。」と好意的な意見が数多く寄せられた。

今後の方向性

・地域に根差した活動としていくため、大学生ボランティアだけでなく地域住民のボランティアを積極的に活用していく。

・コミュニティスクール事業の目玉として継続して実施していく。

「子供への学習支援によるコミュニティ復興支援事業」の取組事例

学びをとおして学校と地域が連携した復興の担い手づくり（宮城県丸森町）

取組の概要や経緯

①東日本大震災での放射能汚染や令和元年東日本台風による甚大な被害からの心の復興が未だ途上であるため、落ち着いて学べる学習環境を提供した。
②週末学び支援として「土曜学び塾」、放課後学び支援として「のびやか教室」を実施し、学ぶ意欲を補完する場や心の居場所づくりを行った。
③「ふるさと学習」を実施し、郷土愛や地域づくりに関心を持たせた。
④「防災学習」を実施し、命を守る行動や地域復興への関心を持たせた。

内容

①学び支援コーディネーターが中心になり「土曜学び塾」「のびやか教室」を企画・運営し、学び支援、ふるさと学習、防災学習を実施した。
②土曜学び塾では、３コース（算数、英語、苦手とっぱ）を設定しきめ細かな支援を行った。
③ふるさと学習では、「ころ柿づくり」を体験させ地域の伝統食文化に触れさせた。
④防災学習では、様々な災害時に命を守る行動について理解させると共に、復旧・復興の現状を知らせふるさと復興を担おうとする姿勢を育成した。

ポイント

①土曜学び塾では、少人数体制で支援することで授業だけでは定着が難しい子供への対応を工夫し、支援員との関り等をとおして落ち着いた学習環境を提供するために高校生ジュニアリーダーを積極的に活用した。
②ふるさと学習では、地域の伝統食文化を体験させ、後日自分か作ったころ柿を家族と一緒に味わわせ共有できるように配慮した。
③防災学習では、実際に被災した方から講話を聞き、災害から身を守る行動や復旧・復興に取り組む方々の強い思いを感じさせた。

成果

①支援員との関りをとおして落ち着いて学ぶことができる場所づくりを行うことができた。
（土曜学び塾：35回開設延べ478名参加、自学後にコース別学習、最後に脳トレ等を実施）
【主体的参加93%、楽しく参加93%、集中して学習96%】
（のびやか教室：8回開設延べ75名参加、自学後に昔話やニュースポーツ、理科実験ショー）
【主体的参加94%、楽しく参加96%、集中して学習63%】
②ふるさと学習をとおして郷土愛をはぐくみ、地域づくりに取り組む姿勢を感じさせた。
（講師：丸森町耕野いなか道の駅やしまや店主八島哲郎氏、参加児童18名）
③防災学習をとおして様々な災害から命を守る行動について理解することができた。
（3.11を忘れない：やまもと語りべの会講師鈴木健一氏、講話後にクロスロードを体験）

今後の方向性

・学びの習慣化や心の居場所づくりに向け、地域の人々との関わりを深めるための活動を工夫する。
・郷土愛をはぐくむためふるさと体験学習等の内容を工夫する。
・防災学習を焦点化し、心の復興をすすめると共に命をまもる行動や復旧・復興の担い手づくりを工夫する。